

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

**令和６年度**

**大阪の学校保健統計調査報告書**

**大阪府総務部統計課**

**目 次**

１

調査の概要

利用上の注意 2

調査結果の概要 3

**調査結果**

１　発育状態

（１）身長 4

（２）体重 8

２　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率 12

３　健康状態

（１）疾病・異常の被患率等の状況 14

（２）主な疾病・異常等の状況

①裸眼視力 15

②鼻・副鼻腔疾患 16

③むし歯(う歯) 17

④アトピー性皮膚炎 18

⑤ぜん息 19

20

**統計表**…………………………………………………………………………………………………………………

# 調査の概要

１　調査の目的

　 学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにする。

２　調査の範囲・対象

（１）調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）とする。

（２）調査の対象は、調査実施校に在籍する満５歳から17歳まで(令和６年４月１日現在)の幼児、児童及び生徒。ただし、発育状態調査は校内抽出。

【大阪府の調査実施校数及び調査対象者数】



３　調査事項

（１）幼児、児童及び生徒の発育状態(身長、体重)

（２）幼児、児童及び生徒の健康状態(栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の疾病・異常の有無、視力、聴力、

　　　眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の

　　　有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病・異常の有無、尿及びその他の疾病・異常の有無)

４　調査の実施時期

　 学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、4月1日から6月30日までの間に実施。

５　調査の系統

　 文部科学大臣　　　　　大阪府知事　　　　　調査実施校の長

# 利用上の注意

１　本報告書は、文部科学省が公表した「令和6年度学校保健統計調査結果報告書」のうち大阪府分を取りまとめたものである。

２　年齢は、令和６年４月１日現在の満年齢である。

３　小数点以下は、単位未満を四捨五入したため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

４　表中に用いた符号は、次のとおり。

「－」　計数が無い

「0.0」 計数が単位未満

「…」　計数出現があり得ない又は調査対象とならなかった

「Ｘ」　標本サイズが小さい等のため統計数値を公表しない

「△」　負数

５　健康状態調査は、平成17年度以前は都道府県別集計が行われていなかったため、平成18年度以降のデ

ータを掲載している。

６　令和２年度から令和５年度の調査結果については、新型コロナウイルス感染症の影響により測定時期を異にしたデータが含まれた結果であることから、今回の調査結果と比較はできない。

**調査結果の概要**

**１　発育状態**

**・身長**

全国（平均値。以下同じ。）と比較すると、男女ともやや低い傾向

男子は５歳、７歳から12歳まで、14歳、16歳で同じか下回っている。

女子は５歳から８歳まで、10歳、11歳、13歳、16歳で同じか下回っている。

　・**体重**

全国と比較すると、男女ともやや軽い傾向

男子は5歳から15歳まで、17歳で同じか下回っている。

女子は5歳から16歳までで同じか下回っている。

**2　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率**

　・**肥満傾向児**

全国と比較すると、

男子は5歳から７歳まで、９歳から11歳まで、13歳から15歳まで、17歳で下回っている。

女子は９歳を除く全ての年齢で下回っている。

　・**痩身傾向児**

全国と比較すると、

男子は５歳、８歳から11歳まで、14歳から16歳までで同じか下回っている。

女子は６歳、８歳から15歳までで上回っている。

**3　健康状態**

**・裸眼視力1.0未満の者の割合**

幼稚園25.4％、小学校37.6％、中学校65.0％、高等学校74.8％となっている。

全国と比較すると、７歳から10歳まで、12歳から17歳までで上回っている。

　・**むし歯(う歯)の者の割合**

幼稚園17.1％、小学校34.4％、中学校28.6％、高等学校36.3％となっており、

全国と比較すると、5歳を除く全ての年齢で上回っている。

# 調査結果

## １　発育状態

### （１）身長

**表1　身長の平均値（全国との比較）**



全国（平均値。以下同じ。）と比較すると、男女ともやや低い傾向

男子は５歳、７歳から12歳まで、14歳、16歳で同じか下回っている。

女子は５歳から８歳まで、10歳、11歳、13歳、16歳で同じか下回っている。

****

**図1-1　身長の平均値（男子・全国との比較）**

**図1-2　身長の平均値（女子・全国との比較）**



**図2　身長の平均値（全国との差）**



**図3　身長の平均値の推移**

**5歳**

****

**11歳**

**14歳**

****

**17歳**

****

（注）１　５歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。

２　昭和45年度及び昭和46年度は、都道府県別集計が行われていない。

３　昭和52年度及び昭和53年度の数値は、「学校保健調査」（大阪府教育委員会保健体育課実施）の集計結果である。

４　令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。

****

**表2　身長の平均値の都道府県別比較**

### （２）体重

**表3　体重の平均値（全国との比較）**



全国と比較すると、男女ともやや軽い傾向

男子は5歳から15歳まで、17歳で同じか下回っている。

女子は5歳から16歳までで同じか下回っている。

**図4-1　体重の平均値（男子・全国との比較）**

~~~~

**図4-2　体重の平均値（女子・全国との比較）**



**図5　体重の平均値（全国との差）**



**図6　体重の平均値の推移**

**5歳**

****

****

**11歳**

****

**14歳**

****

**17歳**



（注）１　５歳については、昭和27年度及び昭和28年度は調査していない。

２　昭和45年度及び昭和46年度は、都道府県別集計が行われていない。

３　昭和52年度及び昭和53年度の数値は、「学校保健調査」（大阪府教育委員会保健体育課実施）の集計結果である。

４　令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。



**表4　体重の平均値の都道府県別比較**

## ２　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

**表5　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率**



①肥満傾向児の出現率が最も高い年齢は、男子は12歳で13.22％、女子は９歳で9.39％となっている。

全国と比較すると、

男子は5歳から７歳まで、９歳から11歳まで、13歳から15歳まで、17歳で下回っている。

女子は９歳を除く全ての年齢で下回っている。

②痩身傾向児の出現率が最も高い年齢は、男子は13歳で4.02％、女子は12歳で4.51％となっている。

全国と比較すると、

男子は５歳、８歳から11歳まで、14歳から16歳までで同じか下回っている。

女子は６歳、８歳から15歳までで上回っている。

【肥満・痩身傾向児の算出方法】

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度(過体重度)※を算出し、

20％以上の者を肥満傾向児、△20％以下の者を痩身傾向児としている。

　※肥満度(過体重度) ＝ 〔実測体重(kg) － 身長別標準体重(kg)〕/ 身長別標準体重(kg) × 100(％)

身長別標準体重(kg) ＝ 係数a × 実測身長(cm) － 係数b



**図7-1**

**肥満傾向児の出現率（男子・全国との比較）**

**図7-2**

**肥満傾向児の出現率（女子・全国との比較）**

****

****

**図8-2**

**痩身傾向児の出現率（女子・全国との比較）**

**図8-1**

**痩身傾向児の出現率（男子・全国との比較）**

****

## ３　健康状態

### （１）疾病・異常の被患率等の状況

**表6　疾病・異常の被患率等**

幼稚園、小学校、中学校、高等学校とも「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」となっている。

### （２）主な疾病・異常等の状況

#### ①裸眼視力

裸眼視力1.0未満の者の割合は、幼稚園25.4％、小学校37.6％、中学校65.0％、高等学校74.8％となっており、年齢別にみると、16歳が76.4％と最も高くなっている。

全国と比較すると、７歳から10歳まで、12歳から17歳までで上回っている。





**図9　裸眼視力1.0未満の者の割合の推移**

（注)　１　平成20年度の幼稚園は、疾病・異常被患率等の標準誤差が５以上、受検者数が50人未満又は回答校数

が１園以下のため、統計数値を公表していない。

２　高等学校は、メガネやコンタクトレンズで視力矯正をして測定しているため裸眼視力の調査データが無いか

　　少なく、秘匿対象となっている年度が複数存在するため、年次推移グラフは掲載していない。

**図10　裸眼視力1.0未満の者の割合（全国との比較）**



#### ②鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎等)の者の割合は、幼稚園2.7％、小学校7.9％、中学校8.5％、高等学校9.0％となっており、年齢別にみると、６歳が11.9％と最も高くなっている。

全国と比較すると、5歳から15歳までで同じか下回っている。





**図11　鼻・副鼻腔疾患の者の割合の推移**



**図12　鼻・副鼻腔疾患の者の割合（全国との比較）**

#### ③むし歯(う歯)

むし歯(う歯)の者の割合は、幼稚園17.1％、小学校34.4％、中学校28.6％、高等学校36.3％となっており、年齢別にみると、17歳が40.7％と最も高くなっている。

全国と比較すると、５歳を除く全ての年齢で上回っている。



**図13　むし歯(う歯)の者の割合の推移**





**図14　むし歯(う歯)の者の割合（全国との比較）**



#### ④アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園1.1％、小学校2.6％、中学校2.5％、高等学校3.7％となっており、年齢別にみると、17歳が3.8％と最も高くなっている。

全国と比較すると、５歳から14歳までで下回っている。



**図15　アトピー性皮膚炎の者の割合の推移**



**図16　アトピー性皮膚炎の者の割合（全国との比較）**



#### ⑤ぜん息

ぜん息の者の割合は、幼稚園0.9％、小学校1.7％、中学校1.2％、高等学校1.6％となっており、年齢別にみると、6歳が2.5%と最も高くなっている。

全国と比較すると、５歳から15歳までで同じか下回っている。



**図17　ぜん息の者の割合の推移**



**図18　ぜん息の者の割合（全国との比較）**



# 統計表

統計表1　　年齢別身長・体重の平均値及び標準偏差（大阪府及び全国）



統計表2-1　　年齢別身長の平均値の推移（大阪府・男子）

（注）１　年齢は、令和６年４月１日の現在の満年齢である。（以下の各表において同じ。）

　　　２ 標準偏差とは、データの散らばりの度合を表す数値で、小さいことは平均値からの散らばりの度合が小さいことを示す。

統計表2-2　　年齢別身長の平均値の推移（大阪府・女子）

統計表3-1　　年齢別体重の平均値の推移（大阪府・男子）

統計表3-2　　年齢別体重の平均値の推移（大阪府・女子）

統計表4　　肥満傾向児・痩身傾向児の出現率（大阪府及び全国）





- 26 -

統計表5-1　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・男女計)



- 27 -

統計表5-2　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・男子)



- 28 -

統計表5-3　年齢別疾病・異常者被患率等(大阪府・女子)



- 29 -

統計表5-4　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・男女計)



- 30 -

統計表5-5　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・男子)



- 31 -

統計表5-6　年齢別疾病・異常者被患率等(全国・女子)

- 32 -

統計表6-1　学校種別裸眼視力1.0未満の者の割合の推移(大阪府・男女計)



統計表6-2　学校種別鼻・副鼻腔疾患の者の割合の推移(大阪府・男女計)



（注）令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。



- 33-

（注）令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。

統計表6-3　学校種別むし歯(う歯)の者の割合の推移(大阪府・男女計)

統計表6-4　学校種別アトピー性皮膚炎の者の割合の推移(大阪府・男女計)



（注）令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。

統計表6-5　学校種別ぜん息の者の割合の推移(大阪府・男女計)



- 34-

（注）令和２年度から令和５年度の数値については、調査時期の異なる数値を含んでいる影響があるため、 他の年度の数値と比較はできない。